

授 業 科 目 名	必修・ 選択別	単位数	対象 学年	学 期	曜・限	主に使用 する言語	その他に使用 する言語	担当形態			
寄生虫学	必修	講義 2	2	2		日本語	英語	オムニバス			
【担当教員】 小林、神山、岡本、長谷川 感染予防医学講座 内線 5702											
【科目名の英文】 Parasitology											
【授業の概要・到達目標】											
各種寄生虫の基本的性状、病原性とそれによって生じる病態を理解する。寄生虫に対する免疫反応を理解する。主要な寄生虫感染症の疫学、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。診断と治療に必要となる寄生虫と感染臓器と治療薬との関係性を理解する。											
具体的な到達目標						医学科ディプロマポリシーとの対応					
						1	2	3	4	5	6
1. 原虫類・蠕虫類の分類および形態学的特徴を説明できる。						○					
2. 寄生虫の生活史、感染経路と感染疫学的意義を説明できる。						○					
3. 寄生虫の免疫回避機構を説明できる。						○					
4. 各臓器・器官の主な寄生虫症を説明できる。						○					
5. 主な蠕虫感染症（回虫症、アニサキス症、吸虫症）を説明できる。						○					
6. 主な原虫感染症（マラリア、トキソプラズマ症、アメーバ赤痢）を説明できる。						○					
7. 寄生虫感染宿主の生体防御の特徴を説明できる。						○					
8. コンプロマイズドホストと日和見感染症を説明できる。						○					
9. 寄生虫症の診断、治療と予防の概要を説明できる。						○					
10. 各病原微生物、各感染臓器の診断の手がかりとなる病歴と身体所見について説明できる。						○					
11. 新興・再興感染症、人獣共通感染症、バイオテロに関連する感染症を列挙できる。						○			○	○	
12. 感染症法を説明できる。						○			○	○	
13. 食中毒の病因、症候と予防法を説明できる。						○			○	○	
14. 性行為感染症の原因微生物について説明できる。						○			○	○	
各DPへの関連度（計10）						8			1	1	

【授業の内容】

回数	授業項目	授業内容	担当講座・教員	方法
1	寄生虫学総論 1	総論	小林・神山	講義
2	寄生虫学総論 2	総論	小林・神山	講義
3	寄生虫学総論 3	総論	小林・神山	講義
4	寄生虫学総論 4	総論	小林・神山	講義
5	寄生虫学総論 5	総論	小林・神山	講義
6	寄生虫学総論 6	総論	小林・神山	講義
7	寄生虫学総論 7	総論	小林・神山	講義
8	寄生虫学総論 8	総論	小林・神山	講義
9	寄生虫学総論 9	総論	小林・神山	講義
10	寄生虫学総論 10	総論	小林・神山	講義
11	寄生虫学各論 1	原虫-1	神山・岡本	講義
12	寄生虫学各論 2	原虫-2	神山・岡本	講義
13	寄生虫学各論 3	原虫-3	神山・岡本	講義
14	寄生虫学各論 4	原虫-4	神山・岡本	講義
15	寄生虫学各論 5	原虫-5	小林・神山	講義
16	寄生虫学各論 6	線虫-1	小林・神山	講義
17	寄生虫学各論 7	線虫-2	小林・神山	講義
18	寄生虫学各論 8	線虫-3	小林・神山	講義
19	寄生虫学各論 9	人獣共通感染症-1	小林・神山	講義
20	寄生虫学各論 10	人獣共通感染症-2	小林・神山	講義
21	寄生虫学各論 11	人獣共通感染症-3	小林・神山	講義
22	寄生虫学各論 12	吸虫-1	神山・岡本	講義
23	寄生虫学各論 13	吸虫-2	神山・岡本	講義
24	寄生虫学各論 14	吸虫-3	神山・岡本	講義
25	寄生虫学特論 1	特別講義-1	山本・小林	講義
26	寄生虫学特論 2	特別講義-2	山本・小林	講義
27	寄生虫学特論 3	特別講義-3	山本・小林	講義
28	寄生虫学各論 15	条虫-1	小林・神山	講義
29	寄生虫学各論 16	条虫-2	小林・神山	講義
30	寄生虫学各論 17	条虫-3	小林・神山	講義

【アクティブラーニングの内容】

講義で使用したスライドは学内 LAN から閲覧できるようにし、予習・復習を促す。

指定教科書に準拠した講義内容とし、講義スライドと教科書との対応がわかりやすいものに工夫することで自学自習においても理解しやすいものにする。

最新のトピックスを織り交ぜ、向学心を刺激する。

講義の終わりに確認テストを行い、知識の整理を促す。

【その他の工夫】

最新の寄生虫免疫研究や遺伝子改変マウスを用いた研究成果を紹介し、基礎研究と臨床医学の橋渡しを意識した講義を行う。

ワンヘルスの観点から人獣共通感染症を俯瞰的に理解させる。

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	講義のスライドや教科書、参考書による予習を各1時間づつ (30 時間)。
事後学修	講義のスライドや教科書、参考書による復習を各1時間づつ (30 時間)。補講 (6 時間)。
想定時間合計	66 時間

【教科書】

医動物学 改訂8版 南山堂 吉田幸雄 他 2023年 ISBN 978-4-525-17328-9

【参考書】

図説人体寄生虫学 改訂10版 南山堂 吉田幸雄 他 2021年 ISBN 978-4-525-17020-2

絵でわかる寄生虫の世界 講談社 長谷川 英男 2016年 ISBN 978-4061547711

わかる、身につく！ 病原体・感染・免疫 改訂3版 南山堂 目野郁子 他 2017年 ISBN 978-4-525-16233-7

【成績評価方法及び評価の割合】

筆記試験の成績で評価する。

【注意事項】

講義スライドおよび動画は学内限定とし、無断で学外配布することを禁止する。

【備考】

リンク		
	URL	
教員の実務経験の有無	有	
教員の実務経験	小林: 14年、神山: 11年、岡本: 2年、長谷川:41年 程度	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無	
教員以外の指導に関わる実務経験者		
実務経験をいかした教育内容	教科書の知識だけでなく実践的な知識も提供できるため、将来臨床および研究の現場で即戦力となるスキルと知識を習得することができる。	
授業形態	対面授業	